

平成26年度

鳥取市行政評価
外部評価報告書

平成26年10月

鳥取市行財政改革推進市民委員会

目 次

1. 外部評価の目的	1
2. 評価対象の選定	1
3. 評価方法	1
4. 評価スケジュール	2
5. 評価結果	2
対象事務事業別評価	4～9
6. 鳥取市行財政改革推進市民委員会委員名簿	10

1. 外部評価の目的

鳥取市の内部で行った行政評価が妥当であるかどうかを、学識経験者等の専門的見地や市民の視点から検証し、併せて、今後における効率的な行政運営のための提言を行うことを目的としています。

2. 評価対象の選定

平成24年度から3ヶ年かけて評価することとしていた各総合支所所管のイベント事業費補助金について、最終年度として国府、福部、佐治の3地域における事務事業を評価対象としました。

平成26年度 外部評価対象事務事業

No.	事務事業名	担当課
1	マ스つりフェスタ補助金	国府町産業建設課
2	ウォークラリー大会実行委員会補助金	教育委員会国府町分室
3	各種団体負担金(むらづくり運動事業費、むらづくり大会補助金)	教育委員会福部町分室
4	らっきょう生産振興大会助成事業	福部町産業建設課
5	ふるさとの味祭り事業費補助金	佐治町地域振興課
6	公民館祭開催費	佐治町地域振興課

3. 評価方法

平成26年8月5日、『事務事業評価シート』に沿って、担当部局に対するヒアリングを実施し、各委員が評価ポイント等のヒアリングメモを作成しました。

ヒアリングメモでは、「必要性」、「有効性」、「効率性」、「公平性」及び「内部評価（今後の方向性）の妥当性」の5項目を判定することとしました。この判定を踏まえたうえで、最終的に、各委員が「拡充」、「現状維持」、「改善継続」、「縮小」、「休止・廃止・終了」の5段階評価で事業の方向性を評価しました。

平成26年8月29日には、委員が各自のヒアリングメモを基に討議を重ね、本委員会の総意となる評価結果をとりまとめました。

4. 評価スケジュール

委員会	開催日	内容等
第1回	平成26年6月2日(月)	・評価スケジュールの決定 ・評価方法の検討
第2回	平成26年7月2日(水)	・評価方法、対象の決定
第3回	平成26年7月16日(水)	・評価対象事業に対する ヒアリング内容の協議
第4回	平成26年8月5日(火)	評価対象事業のヒアリング
第5回	平成26年8月29日(金)	評価結果(速報版)とりまとめ
第6回	平成26年10月7日(火)	評価結果報告書のまとめ

5. 評価結果

(1) 評価方法の内容

本委員会による外部評価は、平成18年度から実施しています。

実施当初は、第8次総合計画における実施計画の全事務事業(240施策・約600事務事業)が対象でしたが、平成19年度に対象を重要なもの(11施策57事務事業)に絞り、担当部局にヒアリングを行う方法に見直し、本年度で8年目となります。

今年度は、担当部局の施策や事業の考え方について理解を深め、より十分な議論ができるよう、時間配分を1コマ50分から60分に見直し実施しました。

ヒアリングでは、限られた時間と資料や情報を基に行ったことから、すべてを把握したうえで評価が行えたとは言い難い点もありますが、専門的見地や市民の視点から検証することに努めました。

評価結果については、「拡充」から「休止・廃止・終了」までの5段階で行う総合評価として各委員の評価を統計的に処理し、最大意見を採用していますが、各委員が評価した結果も尊重するため、各自の評価コメントも掲載しています。

(2) 総括コメント

平成26年度の外部評価について、委員会では特に次の3点について見直しを図ることを求めます。

① 事業の目的、指標、評価理由を的確に記述する

外部評価の重要な役割は、鳥取市が行った内部評価が妥当であるかどうかを検証することです。これまで報告書で改善されるよう指摘した内部評価結果をまとめた

事務事業評価シートについては、一部で改善の傾向がみられます。しかし、**いまだに事業の目的、活動指標や評価理由などが的確に記述されていないものが見受けられます。**この事務事業評価シートは本委員会が外部評価を行ううえで、最も重要な資料の一つであるばかりではなく、市民への説明責任を果たすうえで必要な資料であります。施策や事業の考え方、市民ニーズ、事業の成果、評価結果とした理由と、継続する場合の終期など客観的数値も取り入れながら、詳しくかつ丁寧に記述することを望みます。

②プレゼンテーション能力の向上

担当課からの事業説明や質疑に対する応答に関しては、適切な回答が得られなかったために、評価過程において「判定困難」とした評価がありました。公開ヒアリングである以上、傍聴者をはじめ評価者にわかりやすい説明となるよう、今後の職員のパプレゼンテーション能力の向上を期待します。

③事業見直しと予算への反映について

過去に外部評価を行った事業で、本委員会が行った評価結果が事業の改善や予算等に反映されていないものがありました。

本委員会の評価結果は、行財政改革の観点から十分に議論し提言を行ったものであり重要なものです。評価結果を踏まえ事業の改善にスピード感をもって取り組んでいただくとともに、検討の結果、反映に至らなかった場合は市民に対しての説明責任を果たしていただくことを強く望みます。

なお、本年度に外部評価を実施しなかった各部局においても、この報告書を十分に参考にされ、今後の行財政改革に取り組まれるようお願いいたします。

外部評価を行うに当たり、ヒアリングに対応いただいた担当部局の職員をはじめ、関係者のご協力に感謝申し上げます。

(3) 平成26年度に実施した外部評価における意見・提案等

評価結果や意見・提案等については4頁から9頁までに個別に記載しています。

※「3 外部評価の結果」には委員会の統一見解を、「5 各委員の評価コメント」には、各委員の個別意見を記載しています。

1 対象事務事業名

事務事業名	マ쓰りフェスタ補助金
-------	------------

2 内部評価の結果

拡充

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
本事業について今後、地域の持続的発展のためのイベントとするためには、地域の特色を生かしたイベントとして検討をしていく必要がある。さらに、財政的に自立できるよう、イベントの目的を明確にし、地域資源・地域活力の活用や創意工夫する必要がある。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計						
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	11%				
高い	78%	有効である	33%	効率的である	33%	公平である	33%	妥当である	44%				現状維持	0%		
低い	11%	有効でない	56%	効率的ではない	44%	公平でない	67%	妥当とはいえない	56%						改善継続	78%
判定困難	11%	判定困難	11%	判定困難	22%	判定困難	0%	判定困難	0%							
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した9名の評価結果を示しています。 11%⇒1人、22%⇒2人、33%⇒3人、44%⇒4人、56%⇒5人、67%⇒6人、78%⇒7人、89%⇒8人、100%⇒9人										休止・廃止・終了	0%					

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市域振興ビジョンの方針でもあり、拡充が妥当。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、過疎化や少子化等に対して、この事業が必要であると思われるので、こうした視点から見直し(駐車場の確保が出来るのか)等、地域の振興に結び付く努力が重要と考える。従来通ではマンネリ化と思われるので、事業に対する地元での再検討を望む。 ・マスの仕入れ先を県内にできないか検討を。 ・実行委員会の主体を市から商工会にシフトし、会場設営費の商工会負担を明確にすること。 ・公平な費用負担の観点から、前売券と当日券の料金の統一を今後検討してもらいたい。また、つかみ取り無料は参加料を払う人との不公平感を感じている。 ・参加者一人あたりの補助金割合が高い。適正かどうか。 ・地域資源の活用、経営的観点での改善が必要。 ・まずは予算の変更を行うのではなく、目的に合った事業の内容に変えていって下さい。改善が実行出来ないのなら予算を削減すべきです。 ・好評だと聞いているので継続してほしいと思うが、改善できることが多々ある。もっと効率的にできると思う。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の観光資源活用した観光イベントとされているが、地域資源活用策への認識、実態はあまり感じられない。 ・地域行事を否定するものではないが、その観点からは市職員の関与度は高く、予算投入も多い。民間の活用策も検討すべき。 ・10/10で予算範囲内とする補助金交付要綱は見直すべき。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	ウォークラリー大会実行委員会補助金
-------	-------------------

2 内部評価の結果

拡充

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
「改善継続」としたものの、ボランティアなどの地域活力の活用を図るとともに、公平で適切な補助金となるよう対象経費等について見直しを図る必要がある。また、総合支所分室単独で行っているが、将来は、支所地域の過疎化の進行を踏まえ各総合支所との連携を強化するなどをし、鳥取市全域のスポーツ振興が図られるよう望むものである。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			現状維持			
高い	100%	有効である	78%	効率的である	56%	公平である	33%	妥当である	44%				拡充	11%
低い	0%	有効でない	22%	効率的ではない	44%	公平でない	56%	妥当とはいえない	33%				現状維持	22%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	11%	判定困難	22%				改善継続	67%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した9名の評価結果を示しています。 11%⇒1人、22%⇒2人、33%⇒3人、44%⇒4人、56%⇒5人、67%⇒6人、78%⇒7人、89%⇒8人、100%⇒9人										縮小	0%			
										休止・廃止・終了	0%			

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化イベントとして妥当。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額については、現状維持。内容については拡充していただきたい。 ・引き続き改善を加えながら、良い事業にしていってください。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支所分室単独でおこなわれる事業ではなく、教育委員会が全市的に、少子化対策の一環として、青少年のスポーツ振興を考える時期に来ているのではないかと。特に、過疎化が進んでいる各支所の連携が出来るよう、教育委員会の努力を望む。 ・事業費の1/3近くが役員報酬費で占められているのはいかがなものか。地域資源の体感、再発見や親子のふれあいにもつながる本イベントは貴重であるが、殿ダムウォーキング大会との一本化など調整も必要。 ・10/10で予算範囲内とする補助金交付要綱は見直すべき。 ・役員(協力者)のボランティア参加を取入れて継続するかどうか検討すべき。 ・職員費等予算に入れる必要性はないのではと感じる。 ・支出費用の30%も報酬費にかかることはおかしい。今の市の事業は、ほとんどボランティアである。是非内容の見直しを。 ・担当事務局として不公平感を持っていないのか。 ・役員謝礼金の出ているイベントというのは記憶がない。謝礼金は半減しても参加者への商品サービスを向上すべきと考える。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	各種団体負担金(むらづくり運動事業費、むらづくり大会補助金)
-------	--------------------------------

2 内部評価の結果

現状維持

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
事業の評価は「拡充」、「現状維持」と「改善継続」、「縮小」がそれぞれ半数を占め、委員の評価が分かれている。「拡充・現状維持」では、住民が主体となって積極的に活動している点を評価している。その一方で、「改善継続・縮小」では市全域での均衡ある発展という観点から、地域間の格差を是正する必要がある、としている。以上の結果から、他地域や他事業との連携を模索し、効果的な事業の実施・改善策を検討されたい。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	80%	有効である	70%	効率的である	40%	公平である	40%	妥当である	40%		拡充	10%
低い	20%	有効でない	30%	効率的ではない	40%	公平でない	30%	妥当とはいえない	50%		現状維持	40%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	20%	判定困難	30%	判定困難	10%		改善継続	20%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、 60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										縮小	30%	
										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化事業として最重要。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民に向けての事業であり(外部の人に関わりなし)地域の人へ浸透している事業であると思える。 ・「現状維持」としたが、どのようにPDCAサイクル(注)をまわして現在に至っているのかの経緯をお聞きしたかった。 ・地域の活性化に花づくりは良い方法であり、それぞれ集落のコミュニケーションも図れるかと思うが、地域の公民館の位置づけ、協力はどうか。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支所教育委員会分室単独でおこなわれる事業ではなく、福部総合支所の地域振興課も含めて、事業の効率化を図ることが望ましい。たとえば、青少年育成は教育委員会分室で、また花づくり運動は地域振興課で分担する等です。 ・地域の良い所悪い所や課題を明確にし、課題に対する改善策に予算を使うべきです。現在の活動が悪いとは言いきれませんが、これで良しとなっている感じを受けます。常に課題問題点は抽出して、それに対する事業にして下さい。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ計画に基づきまちづくり協議会が主体となって各種活動がなされていることは大いに評価できる。ただ、福部町社会教育関係協議会等補助金交付要綱など金額面も含めた他町との公平性に欠ける。 ・均等割10,000円+世帯割500円×世帯数を各集落に配分することは、「福部村」という地域だからできたことで、合併後は、旧市の集落と同様にすべき。著しく公平性を欠いている。「旧市、新市を問わず、市民税や固定資産税は統一基準で課税されている。しかるに、福部町の各集落に、まちづくり協議会を經由して配分金が交付され続けており、税の負担と配分の公平性が損なわれている。花づくり、あいさつ運動、一斉清掃などは、旧市等ではボランティア活動で行われており、福部町各集落にのみ配分金が支給される事由には当たらない。以上のことから、今年度分のこの補助金の廃止、または、集落配分に相当する額の削減を行うべき。また、福部町以外に同様なものがあれば、あわせて是正すべき。 ・伝統と実績のある行事を他地域と同列に論じられない一方、地域コミュニティ計画に基づく地域の活動支援という意味では公平性も求められる。合併前の実績があるというだけの理由で合併後10年経過してもなお同じ事業を続けるというのでは合併の意味の否定にもなる。何れにせよ、全地域のイベント事業をどう考えるかという観点からの見直しの対象とすべきである。

(注)

PDCA サイクル・・・Plan(企画・立案)、Do(実施)、Check(点検・評価)、Action(改善)の頭文字だけを揃えたもので、これら4つのステップを一つのプロセスとして捉え、組織を運営していく事で継続的な改善を図ろうとするマネジメントの考え方。

1 対象事務事業名

事務事業名	らっきょう生産振興大会助成事業
-------	-----------------

2 内部評価の結果

現状維持

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
短期的には妥当な助成であり「現状維持」とした。しかし、「改善継続」という評価も同数程度あり、長期的には現行事業を見直し、若者定住やらっきょう生産への参入など産地維持発展のための戦略を描きながら、より効率的・効果的な事業に対する支援への転換も検討されたい。	現状維持

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	10%		
高い	70%	有効である	70%	効率的である	30%	公平である	50%	妥当である	60%				現状維持	40%
低い	30%	有効でない	30%	効率的ではない	40%	公平でない	40%	妥当とはいえない	40%				改善継続	30%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	30%	判定困難	10%	判定困難	0%				縮小	10%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、 60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										休止・廃止・終了	10%			

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・らっきょう生産の重要大会。強力に推進すべきである。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の解消、生産者の新規就農者、後継者の確保に努めてほしい。 ・日本一のらっきょうを今後も続けてもらうため、あらゆる方向で支援する必要がある。 ・現状維持ではあるが、産地維持発展のための戦略を描いていただきたい。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期的には妥当な助成であるが、長期的には若者の定住とらっきょう生産への参入を促進する施策が必要。 ・全らっきょう農家のための大会であるべき。参加実態や関心・意向・要望を把握すべきではないか。 ・さまざまならっきょう製品が店頭に並んでいる。その中で「砂丘らっきょう」のブランドを活かす方法、生産の方法、拡大、販路へもっと目を向けるべきと思う。そんな研修が必要だと思う。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間団体が行う大会への助成としては人件費も含め過大であり、他の分野と比べ公平性に欠けるのではないか。らっきょう生産への支援は否定するものではないが、別方法を検討すべき。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い切っても問題ないと思います。大会は継続されるでしょうし、らっきょうの振興にはもっと別の予算の使い方があると感ずます。
--

1 対象事務事業名

事務事業名	ふるさとの味祭り事業費補助金(佐治町)
-------	---------------------

2 内部評価の結果

現状維持

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
イベントの目的を明確にし、事業内容を改善する必要がある。さらに、財政的に自立できるよう、地域活力の活用や創意工夫する必要がある。また、「縮小」とする意見が3割、改善継続となされた意見にも補助金の見直しを求める意見も複数あり、その取扱いについて検討が求められる。	改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計		
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性				
高い	70%	有効である	50%	効率的である	30%	公平である	40%	妥当である	50%		拡充	10%
低い	20%	有効でない	40%	効率的ではない	50%	公平でない	40%	妥当とはいえない	50%		現状維持	20%
判定困難	10%	判定困難	10%	判定困難	20%	判定困難	20%	判定困難	0%		改善継続	40%
【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、 60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人										休止・廃止・終了	0%	

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の重要イベント。継続すべし。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校も統合し、地域活性化する上でも必要性を感じる。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少傾向にある地域として、若者の定住化等、長期的視点を取り入れた開催計画が必要に思う。 ・各コーナーに補助金を交付しているが、逆に店業者から参加料を取って売り上げを全部店業者がもらう方式に変更したらどうか。 ・地域振興としての趣旨に変更した上で実施していただくのが、適切ではないか。 ・続けてほしいと思うが、補助金の扱いを考えてほしい。有料で販売されているものも安くはない。補助金がなくても利益は出ている。 <p>【縮小に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営者の半数は市職員であることに加え事業費の2/3は外部招聘アトラクション、事務局費に充当されるなど「農産物の収穫祭、地域文化の伝承、協働のまちづくり」といった目的からかけ離れたものになっている。まちづくり協議会との連携、公民館祭との統合など身の丈に合った事業とすべき。 ・佐治ふるさと祭り実行委員会補助金は交付要綱同種のものと同統すべき。 ・祭りの内容も地域の体制もともに「協働事業」とはなっていないのではないかと。当面は、物販も多いことから補助金を減額する方向で工夫すべきである。何れにせよ、全地域のイベント事業をどう考えるかという観点からの見直しの対象とすべきである。 ・事業として良い所は伸ばしつつも予算を縮小すべき。アトラクションは公民館祭りのように費用をかけるべきではない。安く売ることではなく販路を広げていける取組みを盛り込むべき。もしくは販路拡大に予算を使うべきです。

1 対象事務事業名

事務事業名	公民館祭開催費(佐治町)
-------	--------------

2 内部評価の結果

現状維持

3 外部評価の結果

評価内容	評価結果
<p>評価の視点は肯定的な評価が多く、事業の評価も「拡充」「現状維持」が半数を占めた。その一方で、「改善継続」「休止・廃止・終了」も半数を占めており、今後は、まちづくり協議会を事務局とした事業の実施や他事業・他地域との連携による効果的な事業の実施等、改善策の検討が求められる。</p>	現状維持 改善継続

4 各委員の評価結果の集計

評価の視点の集計										評価結果の集計				
必要性		有効性		効率性		公平性		内部評価の妥当性			拡充	10%		
高い	90%	有効である	80%	効率的である	70%	公平である	70%	妥当である	60%				現状維持	40%
低い	10%	有効でない	20%	効率的ではない	20%	公平でない	20%	妥当とはいえない	20%				改善継続	40%
判定困難	0%	判定困難	0%	判定困難	10%	判定困難	10%	判定困難	20%				縮小	0%
<p>【集計結果が示す割合について】 集計結果が示す割合(%)は、評価した10名の評価結果を示しています。 10%⇒1人、20%⇒2人、30%⇒3人、40%⇒4人、50%⇒5人、60%⇒6人、70%⇒7人、80%⇒8人、90%⇒9人、100%⇒10人</p>										休止・廃止・終了	10%			

5 各委員の評価コメント

<p>【拡充に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化の重要イベント。継続すべし。 <p>【現状維持に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない予算で頑張ったと思います。 ・非常に素晴らしい活動だと思います。他の見本にもなるのではないのでしょうか。この感性と経済性をふるさとの味祭りにも活かしてほしいです。 ・とりくみの方法など良いと思うが、旧市内の公民館と同じにできないか。格差を感じる。 <p>【改善継続に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうした文化活動に対して、各分室で取り扱うのみでなく、合併後10年が経過していることにかんがみ、全市的な視点で戦略を再構築すべきであると思う。また、過疎化対策として同じ悩みを持つ地域の連携が出来るように工夫されたい。 ・市職員が全て執行することは自治会やまちづくり協議会のあり方と逆行するものであり、地域の力を弱体化させる。限界集落という現実の中で他のイベントも含め全体を見直してみる必要がある。 ・鳥取市公民館祭事業補助金交付要綱は同種のものと同様とすべき。 ・開催月の検討を要する。 ・公民館祭と一緒にできないか。検討したらどうか。 <p>【休止・廃止・終了に関連する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金を公民館に交付しているのが実態。経常的な公民館予算枠で対応できるのでは。事業は継続して補助金をやめる。
--

鳥取市行財政改革推進市民委員会委員

委員長	野田 英明
副委員長	山下 恭史
	有田 裕
	牛尾 柳一郎
	小野 達也
	岸本 正枝
	谷本 圭志
	南部 敏
	西村 教子
	縫谷 吉彦
	浜村 恵子
	引田 俊英
オブザーバー	谷 和敏